



紙つぶて

八月三十日、気象庁の立ち会いの下に測候所を閉じて登山家たち(山頂班)が下山し、今年の富士山頂研究が終わりました。七月十六日からの期間に延べ四百三十二人の研究者が滞在して十五課題の研究や教育活動をしました。成果をまとめているところですが、希少現象である超高層雷放電・スプライトの観測、桜島の噴煙の影響による二酸化硫黄の増加など多くの面白い結果が得られています。

今年是世界文化遺産への登録で注目され、登山者は例年の三割増ともいわれ、山頂の人混みも格別で事故も多かったと聞いています。NPOの管理運営は何とか無事に終わりましたが、例年よりも山頂班の対応が増えました。ボランティアの男性が急性高山病になったときは、山頂班員二人が

夏の山頂研究終了

夜間付き添って八合目の診療所まで行き診断を受け、学生が体調を崩したため研究活動を中止して下山した例などがありました。が、的確な判断で事なきを得ています。

山頂班の班長は岩崎洋さんと生越正文さんの二人でした。岩崎さんは四年前のNHK番組「冬富士」にも登場しましたが、二人とも気象庁時代非常勤として山頂を熟知しているので、大家さんの気象庁にも信用があります。常に三人勤務の班員はいずれも八千級級の登山歴やガイドの資格を持ち、緊急時の判断を任せられます。シーズンにわたり夏の研究活動を無事故で終

え、来年七月まで山頂では

二酸化炭素などの観測装置が働き続けます。



(土器屋 由紀子=富士山測候所を活用する会理事)